

1. 日時 : 2月6日(木)16:00-17:00
2. 出席者数 : 111名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. カセロネス銅鉱床PJの操業スケジュールは？

- A. 従来のスケジュールに若干の遅延が生じた。現時点では、2月中に鉱石処理試運転を開始し、その後稼働率を高めながら、8月頃にフル生産に到達する予定。なお、当該遅延による初期投資額(42億ドル)の増額は見込んでいない。

Q. エネルギー事業において、冬場の需要期にもかかわらず、10-12月の精製マージンが低迷したが、要因をどのように分析しているか？また、今後の見通しはどうか？

- A. 構造的な需要減少要因、円安進行に伴う価格上昇による消費者の節約志向に加え、需要地である北日本を中心に暖冬傾向が続いた結果、灯油の需要が想定以上に弱含んだ影響が大きい。今後の見通しとしては、各社が減産を実施していること、3月末に高度化法対応による原油処理能力の削減が実行されることから、需給環境は改善に向かうものと考えている。

Q. 2013年度は大幅な減益の見通しであるが、来年度以降の利益計画について、昨年3月に公表した第2次中期経営計画から、変更の可能性はあるのか？

- A. 中計目標の達成に向けて、足元2014年度予算を編成中であるが、コスト削減や新規プロジェクトの確実な立ち上げに加え、国内市場における需給適正化などの施策を検討している。また、中計最終年度である2015年度の経常利益目標4,000億円以上については、成長戦略の一翼を担う、韓国パラキシレン合弁事業やパプアニューギニアLNGプロジェクトの立上げが順調に進捗していること、加えて、カセロネスについても、2015年度には年間を通じてフル生産となり、計画どおりの利益が得られる見込みであることから、現時点での見直しは考えていない。

Q. 株主還元について、「既存事業の安定化と戦略投資のリターン実現が見通せた段階で拡大を検討する」との考え方が示されたが、精製マージンが低迷し、カセロネスの操業が遅延している現状を踏まえると、実現は難しいのではないか？

- A. 既存事業については、昨年度の反省を踏まえ製油所・製錬所などの計画的な修繕を実施しており、概ね安全・安定操業がはかられている。精製マージンについては、高度化法対応による原油処理能力の削減が実行される中、各社が自律的判断の下、需要に見合った適正な原油処理を実施していけば、十分回復可能であると考えている。また、成長投資についても、カセロネスの若干の遅延はあるものの14年度中に一定の収益貢献が期待できる。従い、株主還元の拡大を検討できると考える。

以上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

(1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化

(2) 法律の改正や規制の強化、

(3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。